

ボランティア やりがい語り合う 東広島 学生や社会人ら50人交流



久保さん(左端)の活動報告を聴く参加者たち

ボランティア活動に取り組む人や興味のある人を対象とした交流会が、東広島市鏡山の広島大東広島キャンパスであった。学生や社会人、高齢者たち約50人が参加し、経験者から多様な関わり方を学んだり、やりがいを語り合ったりした。

県内の大学生でつくるボランティアグループ「晴る」の代表で、創設(せいせつ)2年の久保允治(ひさのり)さん(19)は、能登半島地震の被災地での活動を報

告。被災者の話し相手になったり、子どもの遊び場を用意したりしていることを紹介し「特別な技術や体力、お金がなくてもできることはある。まずは被災地に関心を持つことが大切」と強調した。参加者はグループに分かれ、「相手に喜んでもらえることが励みになる」「人生経験を人のために生かしたい」など意見交換した。

交流会は東広島市社会福祉協議会が主催。手話

を通じて社会活動に取り組む黒瀬高3年久山愛音さん(17)は「人とのつながりが広がるのが魅力。他の分野の活動も携わってみたい」と話していた。(教蓮孝匡)